

2021年に、大阪大学は創立90周年、
大阪外国語大学は創立100周年を迎えます。



大阪大学創立90周年・大阪外国語大学創立100周年

記念事業募金

本学ではこの記念すべき年を迎えるにあたり、「思い つなげる つむぎあう」をスローガンに、本学発祥の地である中之島、さらに吹田、豊中、箕面キャンパスにおいて、さまざまなイベントを開催いたします。

中之島キャンパス再開発事業 「中之島アゴラ構想」

●募金目標額: 30億円



箕面新キャンパス整備事業 「大阪外国語大学記念ホール」

●募金目標額: 2億円



その他記念事業

●募金目標額: 3億円

記念式典、祝賀会
国際シンポジウム関連イベント
産学官連携関連イベント
学生関連イベント
記念出版・展示関連イベント
など

ご寄付の方法

ゆうちょ銀行、金融機関窓口でのお支払い	所定の払込取扱票をご利用ください。お手元に払込票がない場合は、お手数ですが、未来基金事務局までお問い合わせください。
ATM、ネットバンキングからのお振込み	大阪大学未来基金のホームページよりお申し込み手続き後、お振込みください。
クレジットカードのご利用	大阪大学未来基金のホームページからクレジットカードによるご寄付のお申込みを受け付けています。
コンビニ払いのご利用	大阪大学未来基金のホームページからコンビニ払いによるご寄付のお申込みを受け付けています。

大阪大学未来基金

—活動報告書2020—



大阪大学 未来基金事務局

〒565-0871 吹田市山田丘2-8
TEL : 06-6879-8327 FAX : 06-6105-5982
E-mail : kikin@office.osaka-u.ac.jp

大阪大学未来基金ホームページ
<https://www.miraikikin.osaka-u.ac.jp>



大阪大学を応援いただいている皆様へ | 大阪大学未来基金状況のご報告





未来基金の状況

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ご寄付の総額は71億円に。

大阪大学未来基金の受入金額は、2020年3月に総額71億円に達しました。温かいご支援を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。皆さまからのご寄付は、大阪大学の様々な事業に有効に活用させていただいております。

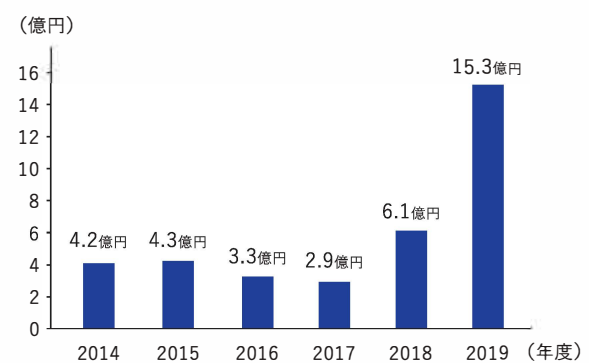
当基金の設置当初(2009年5月)から2020年3月末までの収支状況は、以下のとおりとなっております。

基金残高は52億円、前年度比約12.9億円の増加となりました。2021年度に迎える「大阪大学創立90周年・大阪外国大学創立100周年」の記念事業を進めるべく、2018年に記念事業基金を立ち上げており、2019年度は記念事業基金に対して、多くのご寄付をいただきました(2019年度の総寄付額の8割超)。また、記念事業基金に限らず、各部局や課外活動へのご寄付等、多大なるご支援をいただいております。

当基金は、卒業生をはじめ、地域社会、企業・団体など多くの皆さまのご支援に支えられてまいりました。感謝の気持ちを忘れずに、大阪大学未来基金の活動をさらに活発化してまいりたく、今後とも何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

大阪大学理事・副学長(共創担当) 金田 安史

●寄付額の推移(年度別)



●収支状況

内訳		累計額(億円)
収入	寄附受入	69.3
	運用益	1.7
	小計	71.0
支出	ゆめ基金事業への支出	4.2
	特定基金事業への支出	14.2
	活動費	0.4
	小計	18.8
基金残高(2020年3月31日現在)		52.2
うち記念事業		15.9

(2009年5月～2020年3月)

▶未来基金について

大阪大学未来基金は、大阪大学が世界屈指の研究型総合大学へ発展していく上で、長期的に安定した財政基盤を強化するために設置しております。未来基金には「ゆめ基金」と「特定基金」があります。



(未来社会に向けて)

特定基金

(特定の目的に向けて)

未来社会の「ゆめ」を実現させるため大阪大学を応援していただく基金で、この基金の運用益をもとに、未来を支える学生支援、教育研究支援、国際交流支援、社会連携支援等の事業に活用させていただきます。

用途を特定したプロジェクトをご支援いただくために募集をしているものです。

- 全学プロジェクト
- 修学支援・研究者等支援のプロジェクト
- 学部・研究科等のプロジェクト
- 課外活動等のプロジェクト
- 冠プロジェクト

※2020年10月、「ゆめ募金」、「プロジェクト募金」は、それぞれ「ゆめ基金」、「特定基金」に名称を新たにしております。

本冊子においては変更後の名称を使用しております。

次のページから、未来基金ゆめ基金事業により支援を受けた3名の学生へのインタビューを掲載しております。支援を受けた学生が海外交流、研究、課外活動に励む姿をお伝えすることで、みなさまへの御礼の気持ちとしてお示しできればと考えております。



未来基金活動報告 支援学生からの声 1

10年以上の交流を続ける「日蘭学生会議」

英語での活発な議論通じ、互いの文化を理解し合う

オランダとの間で学生同士が活発な議論を重ねてきている「日蘭学生会議」が設立10周年の節目の2019年夏休みに、ゆめ基金事業「海外グループ研修助成金」を受けてオランダを訪問。グローニンゲン大学で7日間にわたってプレゼンテーションなどを交したほか、地元メンバーの実家を訪れて温かい交流も深めました。代表を務めた根津杏奈(ねつ・あんな)さん＝法学部国際公共政策学科4年＝は「メンバー全員で素晴らしい成長の場をいただきました。本当にありがとうございました」と、感謝を込めて振り返ります。



日蘭の参加メンバー全員が、グローニンゲン大学の大階段を使って記念写真(最前列右から3人目が根津さん)



日蘭の学生同士、熱いプレゼンテーションを交換し合い、議論を深めた

▶「高齢化」「死」「年金」などをテーマに、自己主張の大切さ実感

日蘭間における「違い」を多く発見できました。その一つが、オランダでは個人の主張を尊重すること、自己決定意思の強さでした。特にサブテーマのうち「高齢化の未来」にかかわる「安楽死」について、それを深く感じました。オランダには“Fulfilled Life”という言葉があり「自分が自分の人生に満足したら、そこで人生に終止符を打つ」というような考え方です。これにはいろんな問題点もありますが、「人生の選択をするのは他者でなく、自分であるべきだ」という発想に、死にとどまらず自己制約の多いの日本社会の構造との違いを、改めて実感できました。このほか「年金」については、我々若い世代が積極的に問題意識を持ち、声を上げていくことが大切だ、という思いを強めました。「高齢者医療」に関しては、私の親族が認知症を患っていることもあり、介護する人に負担がかからないように家族や社会全体で支えるべきだ、と一層強く感じました。

◆実家訪問で歓待、自転車文化にも感銘

チームに分かれて、私はドイツとの国境に位置する「エメン」を訪れ、日蘭の3人でダニーク・オッテンさんの実家に寄せてもらいました。ご家族の手料理などで歓待してもらい、近くの動物園体験も楽しい思い出となりました。

観光も含めてオランダ社会全体で感じたのは、自転車文化がすごく発展していることでした。自転車専用レーンがよく整備されていたり、平坦な道が永遠のようにつながっていたり、とても生活しやすそうでした。2人乗りも合法で、日本では禁じられていることを伝えると「どうやって友達と出かけるの?」と、ビックリされました。

国民のほとんどがバイリンガルであること、デジタル化の流れに適應していることなどに感銘を受けました。そして今回ホスト役は、プレゼンテーション経験の少ない私たちに対して、答えやすいように議論でリードしてくれました。優しく、思いやりとユーモアにあふれる彼らがいてくれたからこそ、言語の壁を越えて意義深い国際交流をすることができました。

私は、世界中で起きているさまざまな社会問題に焦点を当てて、提言を行える社会人になりたいと思っています。そして、後輩たちがしっかり連携し合ってチームワークを築きながら、日蘭学生会議が今後20年、30年と発展することを願っています。

日蘭学生会議: オランダ・グローニンゲン大学と大阪大学の学生が、英語でのディスカッションを通して互いの文化の違いを超えて交流し合い、世界的、普遍的な問題に対して自らの考えを深めている。2009年に設立。年に1度、交互に両国を訪問し合う。2019年8月には、学部1～3年の男女11人がオランダを16日間訪れ、【Future of Life(人生の未来)】をメインテーマに、さらに5つのサブテーマとして【高齢化の未来】【誕生の未来】【都市の未来】【安全の未来】【労働の未来】を掲げ、深い議論を交換してきた。

未来基金ゆめ基金事業「海外グループ研修助成金」とは

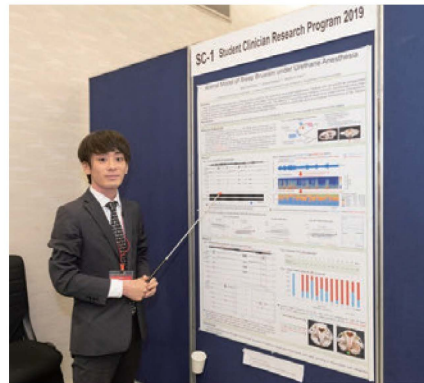
任意に結成された学生グループに対し、自らの企画により海外で交流・研修活動を行う機会を与え、国際感覚豊かな人材を育成することを目的とし、1グループあたり上限100万円の研修費用(渡航費・滞在費等)を助成する事業です。



「歯ぎしり」のメカニズム解明へ～動物実験系の構築～

睡眠も食も大事な活動 その健康を守りたい

ごく一般的な疾患と思われる睡眠時の歯ぎしりについて、意外にもその発生メカニズムは未だ不明であり、エビデンスに基づいた治療方法も確立されていません。この研究に興味を持った歯学部歯学科5年、洵端尚(しょう)さんは、「学部学生による自主研究奨励事業」の基金を受けて実験に取り組み、現在はデータ解析・論文執筆作業を行っています。大震災のボランティアをきっかけに歯学の道を志した洵端さんは「いただいた基礎研究の機会を大事にし、歯科医師としての将来に活かしたい」と意欲を示しています。



①モルモットを使っている睡眠時ブラキシズム研究は、深夜まで及んだ ②全国の歯科大学が参加して学生が研究発表する大会「SCRP(Student Clinician Research Program)」で登壇した洵端さん＝東京の日本歯科医師会館で2019年8月

メカニズム解明を目指す

「睡眠時ブラキシズム動物モデルの電気生理学的検証」というテーマで、研究に携わらせていただきました。いわゆる歯ぎしりはよくある疾患ではありますが、原因は解明されておらず、治療法は確立されていません。その脳内メカニズムの解明には、動物実験を用いたモデルが不可欠です。そこで私は、睡眠と類似した脳波活動を示す麻酔の作用に着目し、モルモットの脳波や呼吸活動、心活動を測定し解析を行いました。麻酔下にある実験動物では、自然睡眠のノンレム睡眠やレム睡眠に似た脳波を交互に繰り返し、顎の筋肉が数回収縮を繰り返して歯ぎしりのように上下の歯をすり合わせる運動が発生しました。つまり、脳や体に刺激を与えなくても自然に歯ぎしりが発生する、という実験モデルとなります。この実験モデルを研究することで、歯ぎしり発生のメカニズムを解明できるのではないかと期待しています。歯ぎしりとどまらず、睡眠や睡眠中の運動についての研究として、さまざまな可能性を秘めた研究だと考えています。口腔生理学教室で加藤隆史教授や片桐綾乃助教をはじめとする先生方から多くのご指導をいただきながら、学部在学中に論文を国際科学雑誌に掲載できるよう励みます。ゆめ基金のご支援によって研究を進められ、個人としても大きな成長をさせていただきました。心から感謝いたします。

震災ボランティアを機に、歯学志す

私が中学生の時に、東日本大震災が発生しました。そして高校生時に岩手県大船渡市のボランティアに参加。その際、知らなかった歯科の2点の領域に出会いました。一つは、歯科医師が歯牙鑑定を行って、多くの身元を特定したこと。もう一つは、避難生活を送る方々への口腔ケアの重要性和歯科医師の役割でした。「歯科に対する社会の認識を変化させたい」という思いも募って、歯学を志しました。臨床実習では歯の痛みで食事もとれづらかった患者さんが、治療によって「しっかり食べられるようになった」と喜ばれる姿にも接し、感動しました。睡眠も食事、人間が生きていくうえでとても重要な要素です。歯学の道を歩みながら、多くの方々の健康維持に役立てる歯科医師を目指したいと思っています。

睡眠時ブラキシズム：いわゆる睡眠時の歯ぎしり。睡眠関連運動異常症として分類され、歯がすり減ったり、入れ歯やかぶせ物が壊れたり、顎の痛みや顎関節症の原因にもなる。なぜ、寝ているのに歯ぎしりが発生するのか、脳の仕組みが分からないため、治療法も固まっていない。

未来基金ゆめ基金事業「自主研究奨励事業」とは

学部学生のうちから、自ら課題を見つけ研究する学生を支援することを目的に、1研究に対して1名の教員がアドバイザー教員となり、学生の研究活動の指導、及び1研究当たり5万円～40万円の研究費を助成しています。令和元年度は57組、164人の学部学生に対して、支援を行いました。



全国Vを目指し、人材育成を目的とする「ヨット部」

全国の大学のうち、トップ級のご支援をいただきながら

ヨット部は2019年、20年と2年連続で2クラスそろって全日本学生ヨット選手権大会(インカレ)に出場することができました。これは阪大にとって初の快挙です。選手たちの努力のたまものですが、その背景にはゆめ基金事業「課外活動用高額物品援助事業」によって艇のマストを買い替えることができたなど装備の充実があります。「全国のヨット部の中で、大学やOB、OGからからいただいているご支援は、最上級です」と感謝する佐藤稜真(りょうま)主将＝基礎工学部システム科学科4年＝に、思いと決意を語ってもらいました。



「スナイプ級」の愛艇の前に健闘を誓う佐藤さん

二人の力が合わさって初めて、ヨットは海を疾走できる

技を鍛えながら、選手たちは友情も育む

マスト新調、新艇購入でインカレ2クラス出場

マストはまさに艇の「支柱」ですので、それを最先端のものに更新することによって、スピートアップにつながりました。部員たちも「こんないい部品が備わり、とても操作しやすい」と、喜びを感じています。これ以外にも募金事業によって、スナイプ級の新艇を購入できました。試合でその実力を発揮できたことはもちろんですが、現役だけでなく「OB、OGも乗っていい」というご配慮をいただいたことにより、先輩たちの直接指導も受けやすくなり、さらなるスキルアップにつながっています。

また、レスキュー艇のエンジンも新調し、一層安全に練習できています。それまでは、老朽化していたエンジンが「ガタガタ」鳴って、「壊れるんじゃないか」と不安に思うくらいでした。本当に有難うございました。「470級」3艇のトータルが全国2番目に新しい点など、本当に恵まれた環境にあります。西宮浜の艇庫は阪神大震災によって全壊しましたが、2年後には新西宮ヨットハーバーに3代目艇庫が完成し、ここを拠点に同じ釜の飯を食べながら毎週末の合宿練習に励んでいます。

2人が協力し合いながら、自然に挑み、他艇と競う

ヨット部はここ数年で、明らかに成長しました。「目標はインカレ優勝だが、第一の目的は人材育成」という部の理念を掲げています。ヨットの魅力は、一人では何もできないこと。艇で役割の異なる2人が舵とセールを操って初めて海を疾走するのであり、自然を相手にしながら他艇と競うという醍醐味を味わうことができるのです。さらに、昨年に正式発足したマネージメントチームが、成績や安全・健康に大きく貢献してくれています。一時は停滞していた部員数も、約40人を数えるほどになりました。

OB、OGの「摩耶帆友会」のご支援は、資金面や練習指導、部員数増にとどまりません。新型コロナ禍での練習停止期間を乗り越えられたのも、部活動再開に向け書類申請などでも多大なご助力をいただけたからです。

ヨット競技は高額な消耗品を使い、技術を磨くため遠征で経験を積まなくてはなりません。皆さまのご支援のおかげで、この数年間の好成績を収めることができました。最終目標の全国優勝を目指し、そして部員間で信頼関係を築きながら人間として成長していきたいと考えています。今後どうぞ宜しくお願いします。

ヨット部：1934年に大阪帝国大学医学部ヨットクラブとして発足し、やがて工学部も加わる。学内学生団体として54年承認。63年の全日本インカレで準優勝を果たしている。全長470㍓でセール(帆)3枚の「470級」、セール2枚の「スナイプ級」の2クラスがある。艇管理、安全確認、炊事などを担うマネージメントチームが2019年に正式発足し、3チームで活動している。

未来基金ゆめ基金事業「課外活動用高額物品援助事業」とは

本学公認の課外活動団体を対象に、緊急性、安全性やさらなる課外活動の充実の観点から必要不可欠ではあるが当該団体だけでは調達することが困難な高額の物品経費等を援助する事業です。令和元年度は13団体に対し、10万円～160万円の支援を行いました。



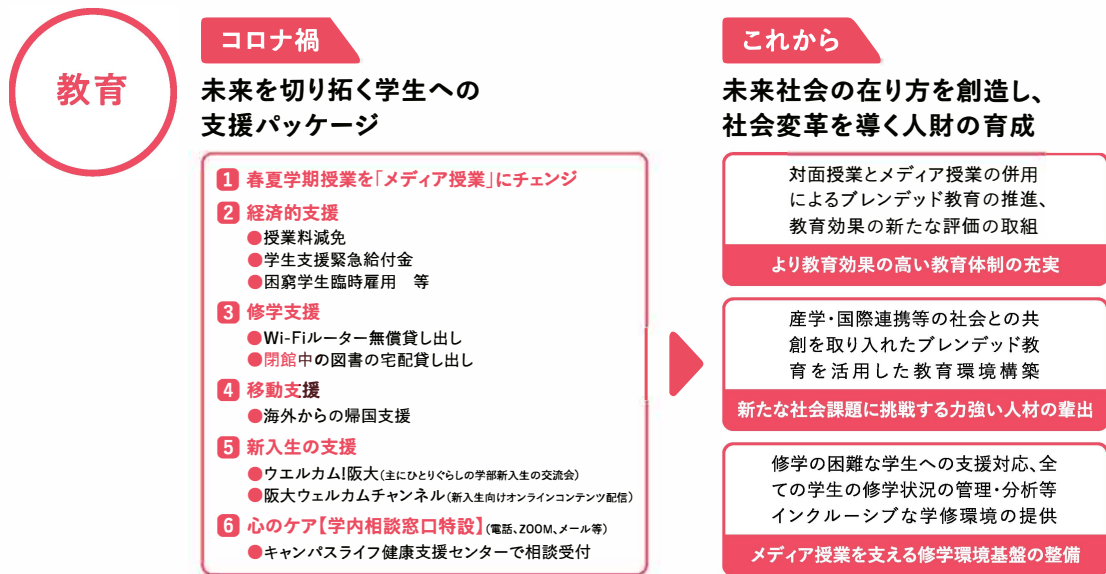
コロナ新時代における大阪大学の取組（教育）

新型コロナウイルス感染症による教育環境の変化

新型コロナウイルス感染症による教育環境の変化は、2月の入試体制の再整備、卒業式の実施規模の大幅縮小、入学式の実施見送りから始まりました。3月下旬には4月中の授業をメディア授業で行うことを決定し、2020年度学年暦のとおり、授業開始時期を遅らせることなく4月9日から授業を開始しました。

学生はメディア授業に対しては、比較的柔軟に受け入れる様子でありましたが、教員は授業開始までの短期間での準備と経験者が少ないことから戸惑いは隠し切れませんでした。春学期・夏学期中はメディア授業を継続して実施することを4月中旬には決定し、授業を進めましたが、さまざまな利点や欠点、課題が浮き彫りになってきました。

コロナ新時代においては、次のような「阪大型ブレンデッド教育」の確立に取り組む予定です。



学生支援

4月9日の授業開始以降、随時多様な方法で、学生・教員の意見収集を行いました。その結果、学生からのさまざまな要望がありましたが、特に経済的支援に関する要望が多くを占めたため、5月末までに経済支援策を確定し、順次、学生からの申請を受け付け、支援を実施しました。

直接的な経済支援としては、授業料減免の実施、学生支援緊急給付金による支援、授業料納入期限の延長、困窮した学生のティーチングアシスタント等としての臨時雇用等を行ったところ。また修学支援として、メディア授業受講のためのWi-Fiルーターの無償貸出、海外留学からの帰国時における待機や移動に係る費用の支援等を、附属図書館では大学院生及び最終年次の学部生への論文執筆に必要な図書宅配貸出を行いました。

これらの支援に必要な財源にはみなさまから賜った寄付金も活用させていただいております。(未来基金「新型コロナウイルス感染症対策基金」についてはP.7をご参照ください。)

さらに、緊急事態宣言に伴う休業要請時に自宅等で待機する学生の心身のケアとして、キャンパスライフ健康支援センターでは相談窓口を特設してその対応にあたりました。また休業要請解除後には、キャンパスを知らない学部1年次学生を対象とした「ウエルカム!阪大:新入生交流会」等を開催しました。

今後

10月、秋学期・冬学期が始まりました。メディア授業の併用も行いつつ、感染予防対策を行った上で対面授業を全学年で再開することができております。

メディア授業の活用による教育活動は大きな変革の時代を迎えています。課題はあるものの、教育の本来あるべき姿に関して新型コロナウイルス禍において再認識ができたことも多くあります。

大阪大学は、高校と大学をつなぐ高大接続から社会人の方を対象としたリカレント教育に至るまで、一貫した教育体制の構築を目指すとともに、各所に対面授業とメディア授業によるブレンデッド教育を取り入れ、教育環境整備をさらに進めてまいります。



コロナ新時代における大阪大学の取組（医療現場）



地域の中核医療機関としての役割

医学部附属病院では、新型コロナウイルス感染症の重症患者を中心に受け入れるとともに、入院予定患者等へのPCR検査体制の整備など院内感染防止に万全を期し、一般診療を継続、地域の中核病院としての役割を果たすべく、取り組んでいます。また、大学として、病院従事者の過度の負担等に対し、医療従事者への手当の新設、医療現場への応援、防護服等の作成支援、事務の支援のための各部署等からの事務職員派遣、医療従事者に対する一時預かり保育室の設置等を行いました。

病院内の感染防止対策

14ヵ所の施設改修を行い専用の対応病室を設置、対応手順を定めて患者対応を行っています。

<院内感染防止のために行った主な対策> (令和2年11月1日時点)

- ①PCR検査の実施：全身麻酔手術等の患者、熱のある病院職員を検査
- ②一部診療の抑制：感染の危険性が高い診療を抑制
- ③外来患者数の抑制：不急の外来治療を延期。付き添い者は1名に限定し、外来玄関でトリアージを実施
- ④入院患者への面会の制限：面会は家族のみ2名、1回30分程度まで許可(13時～18時)。病棟1階エレベータ前でサーモグラフィーによる検温を実施
- ⑤防護具の作成：医療に必要な防護具の不足に対応するため、全学的な協力を得て防護具(マスク、フェイスガード、アイガード、ガウン)を手作りで作成。また、今後の不足に備えて備蓄も確保

クラウドファンディングの活用

大阪大学未来基金としてクラウドファンディングを活用した以下の取組を実施しています。



命を守るフルフェイスシールドをいち早く医療現場へ

寄付総額:37,063,000円 寄付者:2,963人 募集終了日:2020年6月12日

新型コロナウイルスの感染経路としてもっとも多い飛沫・接触感染から、最前線でたたく医療従事者の命を守るために、フェイスシールドとして身近にあるクリアファイルと組み合わせて使用できるフレームを無償配布するためにプロジェクトは始まりました。多くのメディアで取り上げられ、3000人近くの支援者から当初目標額の700%を超える3,700万円あまりの支援金をいただき、20万個のフレームを全国の医療機関300施設に配布することができました。



入院中の赤ちゃんに24時間会えるシステム構築を!

寄付総額:25,163,000円 寄付者:714人 募集期間:11月30日まで (令和2年11月15日時点)

新型コロナウイルス流行下の厳しい面会制限により、入院中の赤ちゃんに一度も会えないご家族がいます。医学部附属病院では、家族の絆を守るために、赤ちゃんにいつでも会うことのできるオンライン面会システムの構築を目指しクラウドファンディングを始めました。これにより入院中の赤ちゃんや若い患者さんなどとそのご家族の方をつなぐシステムの構築に動き始めることができます。さらに、この面会システムを成人の患者さんへ応用することを目指しています。



コロナ新時代における大阪大学の取組（研究）

大阪大学では早期実用化を目指した新型コロナウイルス感染症のワクチン等の研究開発が行われています。

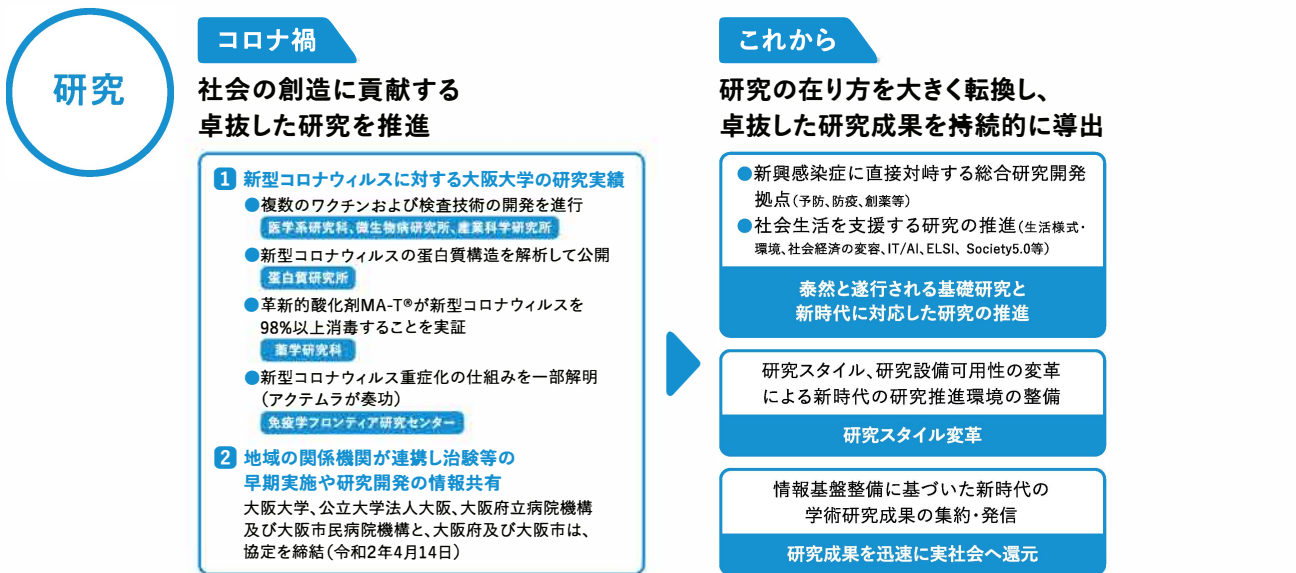
また、4月14日、新型コロナウイルス感染症にかかる予防ワクチン等の研究開発の推進のために、大阪大学、公立大学法人大阪、大阪府立病院機構及び大阪市民病院機構と、大阪府及び大阪府が協定を締結し、地域の関係機関が連携することによって治験等の早期実施や研究開発の情報共有に関する体制を構築しております。

新興感染症に直接対峙する総合的な研究

医学系研究科、薬学研究科、微生物病研究所、産業科学研究所、蛋白質研究所、免疫学フロンティア研究センターをはじめとする学内の多くの部局が、学外組織とも連携して、病態解析、試験薬や治療薬、予防ワクチンの開発、治療戦略の確立、防疫や感染拡大の分析・予測等、新興感染症に直接対峙する総合的な研究を推進しています。また、大阪大学発ベンチャーもその機動性を生かして、それらの課題に迅速に対応しようとしています。本学への国内外からの大きな期待に応えるべく、これまでも増して、部局間連携とともに学外との良好な共創関係を推し進め、またそれに応じ研究支援体制も充実させています。

感染症総合研究開発拠点の構築

大阪大学の蛋白質科学、病原微生物学、ゲノム科学、ナノテクノロジー、情報科学等に関する卓越した知を結集する形で、産業界との共創のもと、基礎研究から臨床研究・治験、社会実装まで取り組む総合研究開発拠点を構築します。吹田キャンパスは、医歯薬生命系の各部局、工学研究科及び情報科学研究科、関連した研究所・センター群に加え、2つの附属病院を擁しており、感染症に関する総合的な研究開発を行う拠点として理想的な環境にあります。一貫したマネジメント体制のもと、効率的・効果的かつ普遍的な診断薬、治療薬、予防法等に関する研究開発を加速し、国際的な脅威となっている新型コロナウイルスをはじめとする新興感染症を克服し、将来の脅威に備えます。



コロナ新時代の社会生活を支援する研究

新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、我々の生活様式や環境にも大きな影響をもたらしています。新しい生活環境において、人々が幸福を感じつつ豊かに生活を送っていくことがまさに重要です。そのために人間にとって真に不可欠なものはなにか、それを獲得・保持するとはいかなる事態をいうのかという根源的な問いを、哲学・思想や文化・芸術等の観点から捉え、またそのような行動変容を促すものを探る人と社会に関わる基盤的な研究、あるいは新しい生活スタイルがもたらす社会経済の変容に関する研究等、人文学・社会科学分野の研究が一層重要度を増していきます。また、多様化と包摂をうまく進めるうえで日本文化に根差した価値観との整合性をどのように図っていくか、そうした観点から既存の法規制、倫理規範、社会通念の在り方を探求するELSI研究においても、本学が強力なリーダーシップを発揮していくことを目指します。



新型コロナウイルス感染症対策基金

新型コロナウイルス感染症対策基金の設置

本年5月1日、緊急事態宣言が発行され、新型コロナウイルスの感染拡大が危惧されるさなか、教育環境の整備や医療体制の維持等、数多くのご心配やご支援の声をいただき、皆様のお声を受け、新型コロナウイルス感染症への対策支援として、「新型コロナウイルス感染症対策基金」を設置しました。

設置以降、2,000名を超える方々から、総額2億円を超えるご寄付をいただきました。ご支援をいただき、誠にありがとうございました。寄付金については、P4.にてご紹介しました新型コロナウイルス感染症拡大に伴う学生支援への活用等、国や本学の財源では不足するものに活用をさせていただいております。

次世代の教育・地域を支える中核医療機関・ワクチン等の研究開発へのみなさまのご期待を深く受け止め、引き続き大阪大学の使命を果たすべく取り組んでまいります。

●新型コロナウイルス感染症対策基金の受入状況			(11月10日時点)
学生支援	912件	29,389,754円	
医療対策支援	92件	32,419,603円	
ワクチン等研究開発支援	1,029件	150,627,477円	
全般(上記のいずれかへの活用)	477件	14,963,000円	
合計	2,510件	227,399,834円	

大阪大学未来基金
新型コロナウイルス
感染症対策基金の設置

修学支援

研究開発支援

医療支援



**理事・
副学長(教育担当)**
田中 敏宏

修学支援に関しまして、未来基金へ多大なご寄付を頂戴し、誠にありがとうございました。

大阪大学では、6月から十分な感染対策をとりながらキャンパス活動を徐々に再開してまいりました。再開にあたり、先ずは故郷の家族のもとを離れて一人暮らしをはじめた新入生を主な対象とした「新入生交流会」を開催しました。名実ともに新入生をキャンパスに迎えられ、互いに打ち解け合う姿からキャンパスライフを充実させるきっかけになったのではと考えております。

また、このコロナ禍の中で、大学院生を含め学生達はこれまでに経験したことのない問題に直面しておりますが、自ら乗り切ろうとしています。大学という社会に向き合うことを学ぶ場で、そのあるべき姿を体現する学生達が、世の中を牽引するたくましい世代となるころには未来を背負う人たちが数多く出てくる、そう期待しています。

10月からは、対面授業に適した教育とコロナ禍で得られたメディア授業の長所を活かした教育を併用する「ブレンデッド教育」を本学の標準スタイルとして進めていくこととしており、より効果の高い教育を実践してまいります。

これからも、困難な中であらたな社会を切り拓こうとしていく学生達を大学は支えていきたいと考えておりますので、引き続きのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



**理事・
副学長(共創・病院担当)**
金田 安史

新型コロナウイルス感染症対策基金による医療現場と研究開発に対するご支援、厚くお礼申し上げます。

また、当初様々な物資が不足しておりました附属病院に、マスク、医療用ガウン等の防護具を多数お届けいただき、心より感謝申し上げます。

附属病院では、重症患者の受入れやPCR検査の実施等、感染防止対策を行い専用の対応病室を設置し、対応手順を定めて患者対応を行っております。

研究開発においては、病態解析、治療戦略の確立等、新興感染症に直接対峙する総合的な研究を推進するとともに、予防ワクチンや治療薬等の治験を早期に実現するため、大阪府、大阪府をはじめとする6機関で連携体制を構築し協定を締結しました。

折しも大阪大学は研究成果を社会に実装していく中で、新たな問題点や研究課題を研究現場に戻し、そこで得られた研究成果を再び社会に実装していく「OUエコシステム」の構築を進めております。この基本方針のもと、新型コロナウイルス感染症から命とくらしを守るための様々な活動が学内の幅広い分野で行われており、その成果を社会に活かし、コロナ新時代を切り拓いてまいります。

更なるご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



記念すべき2021年へ向けて



大阪大学
「ワニ博士」

来年2021年は、大阪大学創立90周年、大阪外国語大学創立100周年を迎える特別な年です。
この記念すべき年を迎えるにあたり、「想い つなげる つむぎあう」をスローガンにさまざまな記念事業を計画しております。

中之島 キャンパス 再開発事業



1F記念ホール



オープンスペース
(交流の場)イメージ

箕面 新キャンパス 整備事業



5・6F大階段・プレゼンスペース

大阪大学の前身、大阪帝国大学発祥の地、「大阪市北区中之島四丁目エリア」に2004年に開設した、本学の社会学共創活動拠点である中之島センターを、文化・芸術・学術・技術という「四つの知」が交差する社会学共創、アート、産学共創のグローバル発信拠点形成を目指し、大規模改修・機能強化することとしております。

大阪市内、中之島では、大阪中之島美術館の建設も進んでおり、新たな文化拠点としての整備が本格化しております。

また、再生医療をベースにゲノム医療や人工知能(AI)、IoTの活用等、今後の医療技術の進歩に即応した最先端の「未来医療」の産業化を推進するため未来医療国際拠点の設置が進められています。

芸術・学術・技術の「三つの術(じゅつ、すべ)」が交差する「アゴラ」を本学開学の地である中之島に実現し、産学共創、社会学共創、アート、引いては文化のグローバル発信拠点の構築を目指します。



大阪大学発祥の地 中之島 堂島川をはさんで
当時の医学部附属病院(左)、医学部(右)、中央は田養橋

●スケジュール

2021年冬	中之島センター改修着工
2022年冬	中之島センター竣工
2023年4月	中之島センターリニューアルオープン

2021年4月箕面新キャンパスが誕生します。新たなキャンパスは、世界の言語を基底とする地域の文化や社会に関する研究を集積する拠点として、高度な専門的知識と幅広い学識を身につけたグローバル人材を育成するとともに、外国人留学生へ向けた日本語・日本文化教育の深化の場となります。

新キャンパスに隣接して、新たな図書館と箕面市立の生涯学習センターや文化ホールが誕生します。特に図書館は、大学図書館と市立図書館とを大学が一体的に管理運営し、学生・教職員と市民に向けた新たな環境でのサービスを

●スケジュール

2020年12月	箕面新キャンパス竣工
2021年4月	箕面新キャンパス開校
2023年度	北大阪急行線「箕面船場阪大前駅」開業

展開する世界的にも類を見ない先進的な運営方式として注目を集め、本学と地域との共創を象徴する施設となります。また、留学生と日本人学生がともに居住する学寮「グローバルピレッジ箕面船場」を整備し、同年4月に供用を開始します。これからの100年も大阪に国際人を育てるグローバルキャンパス・世界と市民を結ぶキャンパスを目指します。



各種 イベント事業

記念式典・祝賀会 2021年5月1日(土)

中之島にて周年記念の式典・祝賀会を開催

中之島キャンパス 再開発関連イベント

キャンパス再開発を進める中之島に関連したシンポジウムや講演等

箕面新キャンパス 関連イベント

箕面新キャンパスの竣工を記念した式典、大阪外国語大学に関連する講演等

国際シンポジウム 関連イベント

海外からゲストを招き、グローバルな内容で展開するシンポジウム等

産学官連携 関連イベント

大阪大学の最先端の研究を紹介する、産学官が連携して実施するイベント等

学生 関連イベント

周年記念大学祭や学生が主体となって展開するイベント等

記念出版・展示 関連イベント

本学の歴史を紐解く年史の刊行や歴史展の開催等